

I. 地域ケア会議とは

(1) 地域ケア会議について

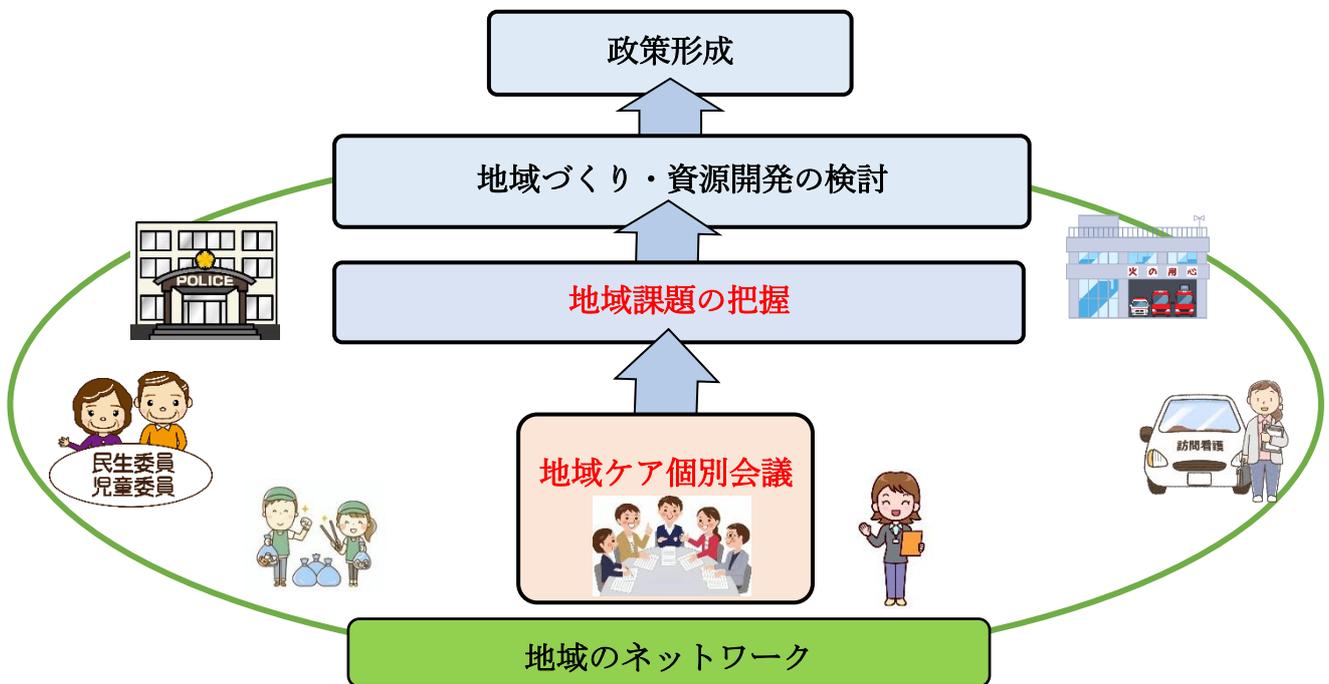
・地域ケア個別会議：個別事例の課題検討

自立支援・介護予防の視点で「要支援者等の生活行為の課題の解決等、状態の改善に導き、自立を促すこと」ひいては「高齢者のQOLの向上」を目指していく。

※ QOL=Quality of life (クオリティ オブ ライフ) は「生活の質」「生命の質」

・地域ケア推進会議：地域に必要な取組を明らかにして施策を立案・提言

地域ケア個別会議で上がってきた地域課題を地域づくりや地域資源の開発などの政策形成につなげていく。



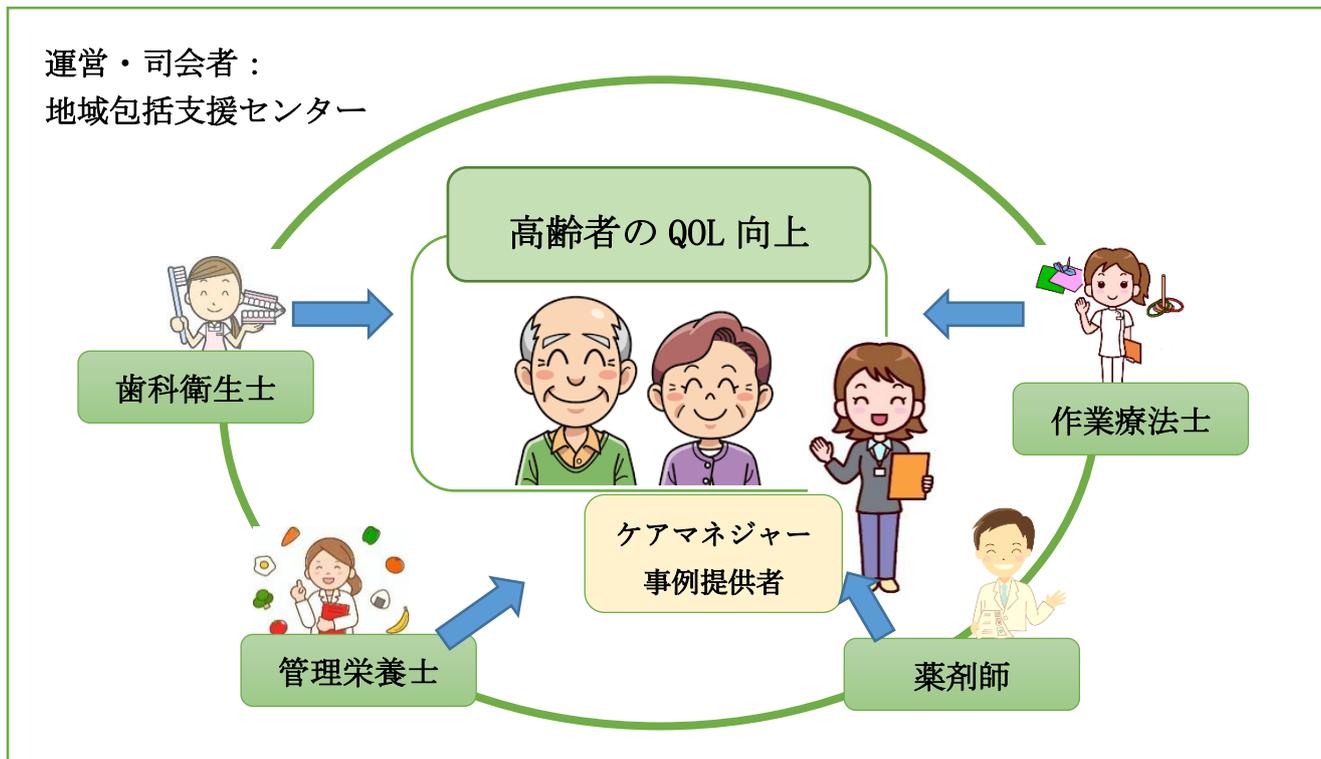
(2) 守谷市における自立支援のための「地域ケア個別会議」

開催頻度：月1回【1回2事例】

事例対象者：要支援者

参加者：司会者・事例提供者・

助言者（作業療法士・薬剤師・歯科衛生士・管理栄養士）



(3) モニタリング

実施時期：地域ケア個別会議実施後，約4か月後

- ・モニタリングにより検討された内容やその支援を実施したことによる成果を参加者に「フィードバック」をすることと，地域ケア個別会議への参加者のみでなく，類似ケースについてもその検討内容や対応内容を活かすことができるように実施している。

II. 実績

(1) 令和3年度地域ケア個別会議 実績

- ① 開催回数：9回（要支援1—8事例，要支援2—10事例 計18事例）
令和3年12月末現在
- ② 内 容：資料No. 2-2参照
- ③ 課 題：現状や病状（難病・がん・認知症等）の進行状況に合わせたサービスの提供
介護保険からの卒業を見据えた社会資源の活用

④ モニタリング：

【対象者】 令和2～3年度の地域ケア個別会議の事例提出者
(令和2年7月～令和3年7月まで24事例対象)

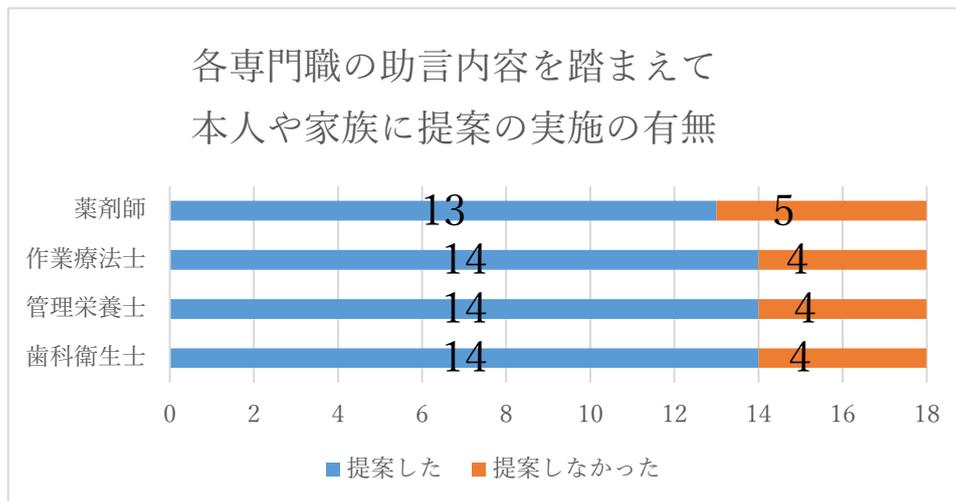
【モニタリング実施時期】 令和3年11月

※今後は，会議後4か月後に随時実施

【回答】 24事例中，18事例回答

【結果】

1-1. 各専門職の助言内容をふまえて本人や家族に提案実施の有無について



1-2. 専門職の助言を次のケアプランに反映の有無について

18事例中，6件について，次回のケアプランに反映したと回答している。

- 2 本人・家族の変化の有無（本人・家族の意識，生活状況等）
助言内容により，家族や本人の意識に変化ありと8件が回答している。

「転倒・ADL 変化時に速やかな相談介入ができた」「安定して通所サービスの利用が可能になった」「家族の協力を得られるようになり、薬の飲み忘れが減った」など好転の事例があった。

※ADL=Activities of Daily Living 日常生活動作

3 事例提供者より

「専門職からの助言により、本人の状態を見直す機会となった」「支援内容について再確認できた」「介護サービスに頼らずに、介護サービス以外の提案も必要であることに気づいた」など自立支援に向けた前向きな意見があった。

【モニタリングまとめ】

個別ケア会議によってケアプランに反映するまでではないが、検討された7割が本人及び家族に助言内容について提案され、自立支援に向けた介入に活かされたことがわかる。その介入により、その半数は好転の変化があったことがわかる。また事例提供者(ケアマネジャー)の意見からこの会議が自立支援に向け効果的であったと考える。

(2) 事例やモニタリングを通して

① ケアマネジャーとの共通理解

市内のそれぞれの事業所の特徴や特殊性を、ケアマネジャーと情報共有する。

② 事例の共有

難病やがん患者等の担当をしたケアマネジャー（過去の事例を含む）等が情報交換できるように介護支援専門員連絡協会（守谷支部）と連携を図る。